

報道関係各位

2006年2月2日
森ビル株式会社

**MEDIA SHIP『表参道ヒルズ』 2月11日グランドオープン
～表参道発、新たな未来を切り開く“文化情報発信の箱舟”が出航～**

森ビル株式会社(本社：港区六本木 代表取締役社長：森 稔)は、神宮前四丁目地区市街地再開発組合(理事長：石井 徹)と共に推進してきた複合施設『表参道ヒルズ(神宮前四丁目地区第一種市街地再開発事業)』を2月11日(土・祝)にグランドオープンいたします。

『表参道ヒルズ』は、表参道のランドマークとして長く親しまれてきた「旧同潤会青山アパート」の建替事業です。地下鉄表参道駅から明治神宮へと至る、世界を代表するストリート「表参道」の約1／4の長さを占める約270mのファザードを構え、地上6階地下6階、延床面積34,061㎡、93店舗の専門店が集う商業施設、38戸の住宅、全216台の駐車場で構成された複合施設です。

MEDIA SHIP (メディアシップ)

～人と人を繋ぎ、表現と表現のコラボレーションを生み出す媒体

表参道ヒルズは、日本のファッション、文化の中心としてトレンドを発信し続けてきたストリート・表参道の新たな核として誕生する、世界に類をみない文化商業施設です。本館中央の6層(地下3階～地上3階)の吹き抜け空間や、それを螺旋状に囲むように表参道の坂とほぼ同じ勾配を持つ長さ700mの“スパイラルスロープ”(第二の表参道)、吹き抜け空間中央(地下1階から地下3階)の大階段、そして大階段につながる地下3階には約500㎡の広さを持つ多目的スペースなどが配置されています。

また、外壁に設置された長さ250mのLED「ブライトアップウォール」をはじめ、ムービングプロジェクターや超指向性スピーカー、大画面ディスプレイなど、光や映像、音などによる多彩な演出を可能にする最新の装置・技術が館全体に施されています。

これらの創造的な空間と、スパイラルスロープ沿いを中心に配置された“こだわり”の店舗群、参加アーティスト、そして表参道ヒルズに集う高感度な人々が融合し、施設全体が新たな“メディア”となって、これまでにないまったく新しい表現力を持つ施設が誕生します。

2月11日、表参道から世界に向けて、新たな未来を切り開く“文化情報発信の箱舟”として、メディアシップ「表参道ヒルズ」が出航します。

■メディアシップ・アーティスト

◇安藤忠雄 表参道ヒルズ／建築設計

建築家。1941年大阪生まれ。独学で建築を学び1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。環境との関わりの中で新しい建築のあり方を提案し続ける日本を代表する建築家。表参道ヒルズでは、「都市の記憶」「風景の再生」をテーマに、表参道のシンボリック存在であった旧同潤会青山アパートの遺伝子を引き継いで、次世代のランドマークへと再生。

◇Julian Opie ジュリアン オピー 表参道ヒルズ／オープニングアートワーク

アーティスト。1958年ロンドン生まれ。ゴールドスミス・カレッジを卒業後80年代より国際的に作家活動を展開する。作品は、絵画、彫刻、アニメーション・フィルム等多岐にわたり、近年は主に人物や風景をピクトグラムのように単純化させた作風で知られる。表参道ヒルズでは、「歩く人」をモチーフにしたオープニングアートワークを展開。

◇藤原ヒロシ 表参道ヒルズ／ランドソング

音楽プロデューサー、DJ、クリエイター。1964年生まれ。ロンドン、その後NYに渡り、帰国後の80年代からDJとしてキャリアをスタート、90年代より音楽プロデューサーとしても活躍し、音楽プロデュース・作曲家・アレンジャーとしての評価を高める。裏原宿など東京のストリートカルチャーのカリスマといわれ、常にカルチャーシーンをリードする存在として、国内外から注目を浴びつづける存在である。

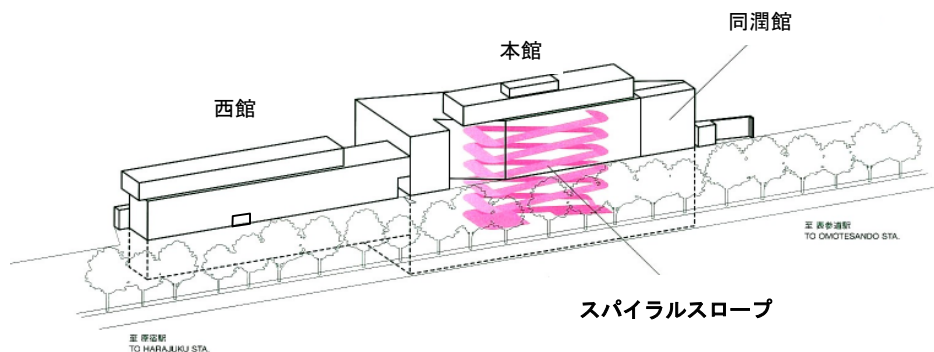
◇内原智史 表参道ヒルズ／建築照明デザイン

ライティングデザイナー。1958年京都生まれ。多摩美術大学デザイン科を卒業後、榊石井幹子デザイン事務所を経て、1993年に(有)内原智史デザイン事務所を設立。光による空間プロデュースだけでなく、照明器具から都市景観照明のデザインを手がける。金閣寺など歴史的な建造物や六本木ヒルズのライティングを手がけたことでも有名。表参道ヒルズでは、ファサードに組み込んだ長さ250mのLEDウォールをはじめとする館全体のベース照明デザインを担当。

◇+NOP 表参道ヒルズ／環境演出

Notion Organize Project. 2004年、表参道ヒルズの環境演出を手がけるために結成されたクリエイターユニット。「谷川淳司」「伊東保典」「井出祐昭」「丸野優」という各分野のエキスパート4人で構成。かつてないポテンシャルを持つ表参道ヒルズにおいて、映像、照明、音響など、最先端テクノロジーを国内最高レベルの技術力で融合させ、従来にない発展性を持った環境アートを表現する。

■商業エリア概要



表参道ヒルズの商業エリアは、西館（地上2階～地下2階）、本館（地上3階～地下3階）、同潤館（地上3階から1階）の3つの建物からなり、本館地下4階には182台のお客様駐車場を完備します。本館の中央となる6層の吹き抜け空間の周りに、表参道の坂とほぼ同じ勾配の螺旋状の坂“スパイラルスロープ”を施し、このスロープに沿ってショップやレストランが路面店感覚で連続的に並びます。総店舗数は93店舗、初出店（日本初直営含む）と既存店の新業態が約半数、また表参道ヒルズ店を旗艦店とする店舗も半数にのびります。

【ターゲット】

メインターゲットは、遊び心に溢れ、創造することを楽しみ、マイナス10歳のマインドを持つ表参道を愛する「O・T・O・N・A」※たちです。ファッション感覚が高く、都会的な生活を志向するエイジレスな男女や世界中から東京を訪れるクリエイター、アーティスト、ジャーナリストもターゲットに含まれます。

※「O」 Originality／オリジナル（個性）溢れるライフスタイルを持ち、
 「T・O」 Together／トゥギャザー（仲間）を大切にし、
 「N・A」 Nationality／ナショナルリティ（国民性）を大切に思い、
 グローバルな感覚も兼ね備える人

【MDコンセプト】

コンセプトは、“INDEX OF CREATIVE AND LIMITED EDITION～厳選されたクリエイティブを探し出す場～”。表参道ヒルズ全体が、ライフスタイルに対して新しい解釈を与えるような最新の編集情報“暮らし方、使いこなし方”を発信し続けます。また、この中で貫かれているのが「こだわり＝RE」のフィロソフィー。それは、伝統的、本格的、上質的なモノやコトに新たな時代に向けての「RE」※のエッセンスを加えて、世界に向けた表参道発、日本初のこだわりのモノやコトを創造することです。

※RE(例) REBIRTH 誕生 RECREATION 創造
 REDISCOVERY 発見 REINVENTION 発明 REMIX 構成

■表参道ヒルズ ログコンセプト

表参道ヒルズのロゴデザインは、①表参道の景観や歴史、②「表参道ヒルズ」が誕生し未来に向かっていくイメージ、③世界に向けた日本文化の発信 をキーコンセプトに、アートディレクター「タイクーングラフィックス」(*)により制作されました。

メインロゴ



シンボルマークのモチーフとなる「参」の文字は“あつまる”という意味を持ち、明治神宮に至る参道として拓かれた表参道のアイデンティティを主張するとともに、人々が集い様々な文化が生み出されてきた表参道を象徴します。

シンボルマークのデザインは、明治神宮の大鳥居とそれにつながる参道、さらに表参道ヒルズの大きな特徴であり、第2の表参道とも言うべき建物内部に広がる“スパイラルスロープ”を表現。表参道のケヤキ並木（表参道ヒルズのスパイラルスロープ）を、人々が心地よく闊歩するシーンの想起を意図しています。

また、「参」の文字を囲む楕円は、表参道の頭文字「O（オー）」と、日本の文化的な図像（アイコン）のひとつと言える「ハンコ」の形態を表現したものです。



ケヤキ並木のように四季を感じさせるカラーバリエーション

※タイクーングラフィックス アートディレクター／グラフィックデザイナー

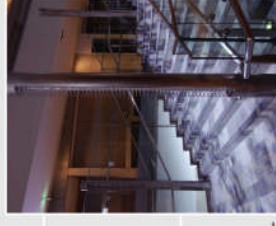
1991年 宮師雄一と鈴木直之により設立。音楽、ファッション、建築関連などのグラフィックデザインを中心に企業広告、ロゴデザイン、パッケージデザイン、エディトリアル分野で活躍中。受賞歴は第78回ニューヨークADC「BIG MAGAZINE」金賞・「BOYCOTT MOVIE」銀賞、第76-79回ニューヨークADC賞受賞、毎日デザイン賞部門賞等多数。

表参道ヒルズ／館内デバイスファクトシート

名称		特長
音響関係	超指向性ムービングスピーカー	大型で高い遠達性を持ち、方向が可変できる特殊スピーカーを設置し、リアルな音像移動やゾーニング効果を可能とした。
	ポール型平面波スピーカー	平面波スピーカーの上下方向に広がる指向特性を利用し、階段に4つの空間を創り出した。
	ゾーニング型シーリングスピーカー	指向方向を定めた小型高音質スピーカーを多数天井に埋め込み、吹き抜けに面した店舗に対する音漏れを少なくしつつも、明瞭度を上げた。
照明関係	アクティブビジョン	ムービングプロジェクターにおいて世界でもっとも長い歴史を持つ日本製の「アクティブビジョン」をこの空間のために新開発した。多彩な映像コンテンツから照明的な演出までを可能とし、ゾーニングされた音響コンテンツとの同期運転を実現します。
	バリライト	ベースライトから劇場的演出照明の表現力可能とする、ムービングスポットライトを使用し多彩な催事にも対応し、時間軸上で映像、音響と常に連動し環境演出が行われます。
	総合空間演出システム	多目的店舗、吹き抜け空間、共有スペースの個別空間を目的に応じて組み合わせて演出を可能とし、多目的店舗の切り売り小スペースから全てを連動させる大規模演出を可能としたシステムを構築。照明制御回路1500チャンネル、商業施設としては日本の大劇場以上のポテンシャルを備える。
映像関係	メディアコントロールルーム	最新の、1000メガネットワークを設備し、映像、音響、照明を高い次元にて連動させることが出来る。専門知識がない人でも館内情報配信のオペレーションを可能とした、新開発のオリジナルコントロールシステムを備える。
	180インチモニター	奥行き26センチに納められる世界で最も薄型の大型DLP [®] ビジョン。 ※デジタルライトプロセッサ
	屋外センサーカメラ(ケヤキカメラ)	センサーカメラにて、表参道の風景(ケヤキなど)の変化を定点観測し、その映像データをコンピュータープログラムにより、デジタル信号に変換して演出に使用。



超指向性ムービングスピーカー



ポール型平面波スピーカー



180インチモニター

■開発概要

【開発コンセプト】

- ◇表参道との景観の調和 ◇独創的なスパイラルスロープ（第二の表参道）
- ◇ケヤキと暮らす住宅 ◇安全で災害に強い街づくり
- ◇緑を育む屋上庭園 ◇外壁の一部を再生

□景観、環境への配慮

当施設は歴史ある表参道の景観と環境との調和を第一に考え、設計には建築家の安藤忠雄氏を起用しました。地下空間を最大限効果的に活用することで建物本体の高さをケヤキ並木と同程度に抑え、積極的に屋上緑化を取り入れることにより、ケヤキ並木と融合する緑豊かな景観が生まれました。また、人々の記憶に刻まれた景観を次の世代に継承したいという思いから、旧同潤会青山アパートを「同潤館」として再生、さらに、雨水を利用した「疎水」などによる新たな環境配慮など、「表参道ヒルズ」には、街の歴史や文化を大切に育みながら、いつまでも多くの人々に親しんでいただけるよう、さまざまな工夫が施されています。

□地域への貢献

地下4階～地下6階の駐車場（店舗用196台、その他住宅用20台）や、表通りから施設北側に抜ける歩行者用貫通通路の設置により地域の利便性に寄与するとともに、防災用井戸の設置などにより防災拠点としても機能します。

□住宅

建物上層部に配置された住宅は総戸数38戸、住戸プランは1LDKを中心に全戸南向きで、窓からはケヤキ並木を臨むことができます。

【事業経緯】

昭和2年	同潤会青山アパート完成
昭和43年頃	青山アパート建替への取組み開始
平成7年	阪神淡路大震災を契機に建替機運高まる
平成10年	設計を安藤忠雄氏に依頼、東京都より底地払い下げ実施
平成13年4月	神宮前四丁目地区市街地再開発準備組合設立
平成14年3月	神宮前四丁目地区第一種市街地再開発事業に関する都市計画決定
10月	神宮前四丁目地区市街地再開発組合設立
平成15年3月	神宮前四丁目地区第一種市街地再開発事業に関する権利変換計画認可
8月	建物工事着工
平成18年1月	建物竣工
平成18年2月	表参道ヒルズ（商業施設）グランドオープン